

同人社ポートの歴史 1960

自分の目標を作って、それを制覇して行くことであらう。これはまたバドミントン部のみならず、全ての部にとっても考えなくてはならない問題なのである。

ボート部

「創設から固定座全盛迄」

「八月四日は武徳会短艇大会の当日なり、今日より僅に旬日のみ。我選手諸士は日頃炎威に加るに霜雨を以てするも己に教週周身を湖上に暴露し、巨腕を振って練習に従事す、其勞苦思ふべし、然れども記せよ選手諸士、教百の健児、二百の淑女は日夜郷等の健康と成功とを祈り、寢寝の間は郷等を忘れず、郷等たれ必勝を期して能く戦えよ、更に郷等に求む由来同志社健児の特質は沈勇に在り、大望に在り、士氣に在り、基督教徳義に在り、これを忘れずして勝利以上に眼光を放ちよく勇戦せよ。更に選手に責任たるや決して軽々しくない大いに自重して天下の荒胆を抜いて貰いたい、嗚呼、かくも厳しく選手を鞭うつものは誰であらう。誰でもない、是れ我端艇部の栄光ある歴史であるのだ」(同志社時報より)

近代内スポーツで最初に同志社に輸入されたのは端艇競漕である。一説によると明治十六年頃にすでにボートがあつたと云われているが、はっきりした活躍を示すようになったのは明治二十三年頃からである。この年疎水工事の竣工と共に大津の美保陣に五人乗り貸ボートが沼山出来たので、学生達は土曜日早朝から、又前夜より徒歩で大津に行き盛んに練習した。

その結果有勢なクルーも出来たので堀井が中心になり石山三日月楼下で明治二十四年第一回水上大運動会が開かれるに至った。当時

の文献によれば、
「運動の種類は端艇競漕と競泳で朝十時より日暮にかけて二十余番催したり。同会の賞与授与式が校内にて開催され、小崎校長の演説ありてのち、新島未亡人より賞状賞品の授与あり」

このようにして端艇競漕が同志社の体育を奨励せしめた功績は大であった。

当時活躍し記録に在るのは、牧野虎次(元同志社総長)、高橋彦太郎(三井B・Kシंगाポール支店長)、加藤太郎松(代議士)岡本校(東邦ガス社長)その他にも、二宮謙男、小林峯三、郡淳、予備門の大石七郎等が漕艇界の名手として知られていた。

以来、毎年春季には大津美保陣に於いて水上大運動会を開き、全校あげて内外の教師や女学生徒も参列してかなり盛大を極めた。

又、秋季には唐崎で鰻頭レース(参会者に鰻頭をくばつたのに由来する)なる小規模の競漕会を年々行つた。

同志社、懸念を取る

同志社の端艇を全国に一躍とどろかせたのは明治三十年七月十八日の琵琶湖聯合大競漕大会に出場して、関東の雄者 藤原を(C)塩津(S)都留(5)清水(4)卜部(3)沢田(2)山本(B)小野寺のクルーで三艇身余りの差を以て勝利を握つた事である。これは後、昭和初め迄対抗レースとして続いた。

この勝利が遂にボート新造の気運を高め教文を広く校友に配り、新艇建造の援助を仰いだ。

かくて望み通りの寄附金を充て、直ちにボート三隻の建造に着手し、明治三十一年四月十五日を期して三保ヶ崎で進水式を兼ね、春季水上大運動会を開催した。三隻は、各々「阿蘇」「霧島」「浅間」と命名された。

明治三十一年八月七日、再び大日本聯合端艇大会に出場し大阪商業(現大市大)と対戦。前年、同志社は藤原に、大阪商業が大津師範に勝ち所謂争覇戦に等しきものであつたが、遂に半艇身の差を以て勝利を獲得したのである。

明治三十二年八月六日、三度び大日本聯合端艇競漕大会に出場して、優勝旗を獲得し、記録も四分五十一秒(二千米)と日本端艇界のレコードを作つた。当時の記録によれば「練習振りは血が出て一本も漕げなくなつてしまつた。然し主将は練習を欠かす事を許さない。泣く泣く漕いでいるうちに、遂に金をたたくような音のする腕になつたぞうな。」「当時、同志社の(整調)都留、(5)清水が出ると思はれは出漕する学校は凡て震駭したぞうである。

以後学制改革起り、堀井校長、安部教頭の辞職に伴い生徒の退学、転校相次ぎ、短艇部も非常に打撃を受け、三十三年には例年の全国大会には出場をとりやめ、三十四、三十五、三十九年の三度出場したが不幸惜敗して昔の面影はなく、唯春季の水上運動会及び秋期の鰻頭レースを年中行事としてきた。

明治四十五年大学部創立と共に、中学、大学別々のクルーになり、新艇を建造して其の技を磨き、校内及び校外の競漕会に出場し、或いは、艇隊を組織して琵琶湖周航の壮挙を演じた。大正初期には殆んど対外的な記録は残っていないが、益々水上大運動会が盛んになった。因に大正十二年に行われた水上大運動会を当時の同志社時報は、「我々の第二十一回春季水上大運動会は昨年の通り、大津尾花川製氷会社の前で開かれた。見渡す限り麗日秋風の空模様、いつもならば三々伍々と集る健児は大概小関峠を越えて来たが本年は京津電車が開通してから減つた事は生徒の服装でも知れる。砲撃と囂喊たる祭典は吾人をして開会を知らしめた。」とある。このよ

うに水上大運動会が盛大を極めていたのは、同志社教育に於ける端艇の比重が非常に大であつたが為と言えよう。

淡路島周航の事

大正八年七月、当時天下の耳目を躍動せしめた淡路島一周、鳴戸海峡突破の壮舉成る。あの一葉の扁舟を舸して大渦小渦の奔流する鳴戸海峡を乗り切り世間の人をあつと驚かせた。学校でも大騒ぎをし、電報やら急便を飛ばすやらする頃には大磯濱を沖並が漕ぎ出して内海の潮風にクロバリの艇旗をひるがえして南へ南へ進んでい。云つても帰らぬ事ならと学校当局もしようことなしに黙認の形をとらざるを得なかつた。

この壮舉を関西の大新聞は挙げて書きたて、殊に淡路島全島などは可憐い小学生迄周航の歌を唱和して歓迎にこれ努めた。天下の鳴戸の喉を漕ぎ切つた時、終生の感激に胸ときめかして泣きぐづれる者さえあつたと言ふ。

同志社淡路島周航隊歓迎歌

- | | |
|--|--|
| 一、頃しも欧州大戦の
講和条約成る端祥に
同志社奮れの端艇部
我淡路島を一周す。 | 三、淡島三十六周里
白砂青松絶え間なく
漕ぎぬく労を慰めん
されど一つの期待あり。 |
| 二、其真先を迎へてん
千感揺がぬ岩屋港
樽島が磯の朝日影
君等が行く手を祝うなり。 | 四、明石海峡鳴戸峡
由良海峡の三つの瀬戸
激流天下に轟けり
疎水下りてそれ以上。 |

五、君等が日頃の鍛練は
茶飯事と行んこの渡航
目出度一周終し時
江崎の汀台煙やかん。

六、更に君等の一行を
招し迎えて勇まじき
感懐談を聞かまほし
我等はそれを楽しまん。

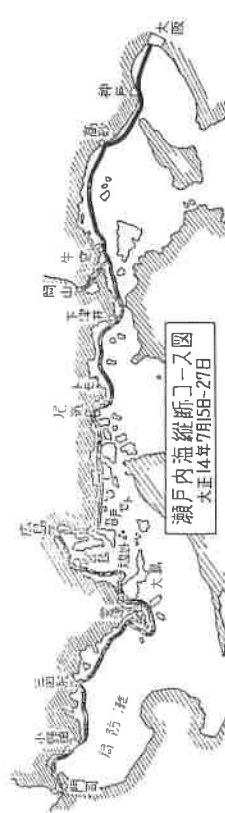
「滑席艇時代……戦前」

大正八年に滑席艇日本に入る。が、鳴戸海峡突破の壮舉に意気あがる同志社は、「滑席艇は我國に通せず」と云う勇猛果敢な決意をし、なかなか、滑席艇に踏み切れなかった。しかし翌九年第一回東西両帝大の対抗レース観戦により、同志社も滑席艇に踏み切った。東辻、渡辺、中川の苦心で、大正十年滑席艇建造案が成立後、五ヶ年間、積立金を設ける段階に至り、エイト二隻、フォア一隻、ペアー一隻を発注、十一年春「時津風」「天津風」のエイト、フォアの「陽炎」、ペアーの「村雨」の完成を見た。直ちに、東大コーチ瀬田修平、東俊郎両氏のコーチを受け、九月、第一回対慶応大定期レースを行なった。が結果は、滑席艇に一日の長ある慶応に名をなさしめた。当日のメンバーは、(C)東辻、(S)大町、(7)桜井、(6)武津、(5)荒木、(4)元持、(3)東田、(2)市田、(B)南本、この定期戦は翌年の大震災の爲中断された。

大正十三年、大震災後の復興レースを隅田川で開催。震災後でエイト艇失が多くフォアだけのレースであった。参加二十数校、関西からは、同志社一クルーであり、同志社はこのレースが隅田川初出漕となったが、健斗よく準優勝を遂げた。当日のメンバーは(C)人見、(S)武津、(3)荒木、(2)元持、(B)市田。

同志社明治神宮レースに優勝

大正十四年、昨年の準優勝に意気あがる同志社は秋の第三回明治

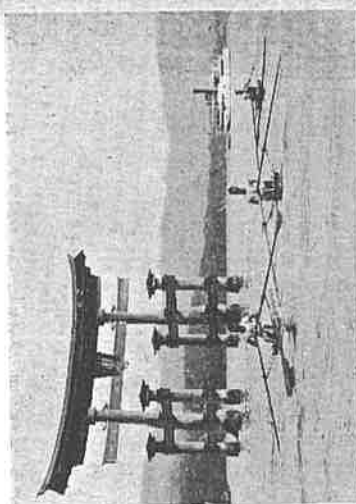


神宮レースに出場。この年の春、関西フォア選手権に優勝した余勢をかって、シエルフォア全国制覇を成し遂げた。メンバーは、(C)人見、(S)市田、(3)北村、(2)元持、(B)鮎川。明けて六月、東都の新鋭明大を瀬田川に迎え、一戦を挑んだが一敗地にまみれた。この年全日本選手権では明大は二度目の優勝をとけている。

同志社スカール瀬戸内海縦漕のこと

大正末期は同志社ボート部の勃興期でもあり、比の副産物として、同志社スカールリング倶楽部が大坂に誕生した。主たる目的は、在阪校友と学生の親睦をスポーツを通して為す事にあつた。この倶楽部が大正十四年七月瀬戸内海縦漕を行なった。大阪門司間四百六十哩、所要日数十三日間、漕艇時間七十二時間半であつた。

昭和に入り同志社に於いて端艇以外のスポーツの大発展により、それ迄同志社体育に占めていた端艇競技の比重もかなり縮小されてきた。昭和初期も大正初期と同じく対外的に殆んど活躍もせず、わずかに年中行事の琵琶湖周航と水上大運動会を継続するにとどまった。



大正末期から始まった、対明大対抗レースも昭和七年、八年と僅差で敗れ、八年には新造エイト「くろがね」を建造した。対明大対抗レースは八年以来中断された。九年に入り、六月の桜宮レースに勝ち、続いて行われた三校エイトリーグ戦にも勝ったが、九月の関西選手権には京大の為に一敗地にまみれた。この年の秋、京阪神をおそった皇宮台風により、昨八年に新築された艇庫が倒壊した。同年、同志社高商はフォアで関西

選手権を獲得した。(写真は宮島を通過するスカール隊)

昭和十年六月にオリンピック予選が行われ、関西から同志社と京帝大が出漕した。同志社は資格予選レースで第一戦は慶応と戦ったが惜しくも第二位となり、続いて第二戦は商大(一橋大)と戦ったが、これ又第二位に終りオリンピック予選レースは完敗に帰した。

昭和十一年には桜宮の海軍記念日競漕に優勝、新たに始まった対大坂商大定期戦にも勝った。同志社高商は京都I.Cにも優勝した。

同志社高商全盛時代

昭和十二年、十三年、同志社高商は全盛時代を迎えた。十二年には関西選手権エイト堂々の優勝をとげ全日本選手権に出場したが、

東大に敗退。同大もこの年、フォアで選手権を握り神宮大会に出場したが敗退。当時の高商クルーは(C)近藤、(S)堀井、(7)渡辺、(6)吉益、(5)井上、(4)柏原、(3)水野、(2)宮本、(B)佐々田、明るる十三年の関西選手権も同志社高商の二連勝で全日本選手権に出漕したが、東京商大に敗れた。十四年、十五年は、関西選手権を大学クルーは初めて獲得した。

決勝戦、一着、同志社大六分〇秒、二着、京帝大、艇差、三艇身、この結果、関西代表として全日本選手権に出場したが、一高に惜敗、全国制覇の夢は破れた。当時のクルーは、(C)杉野、(S)太田、(7)荒木、(6)吉津、(5)武田、(4)宮川、(3)宮本、(2)榎坂、(B)田中。翌十六年の桜宮レースの輝く二連勝を最後に第二次大戦の非常体制はいよいよ緊迫し、他府県への競技参加も禁止されることとなった。

「戦後……滑席艇時代」

戦後の混乱からボートレースが復活したのは、昭和二十二年十月である。それは、第一回琵琶湖レガッタ兼全日本選手権関西予選として、瀬田川コースにて挙行された。当時は艇、オイル共に不足勝ちで、エイトの参加は七校にとどまった。同志社高商は、大筒大、関大予科を破り優勝、全日本選手権の出場権を獲得した。

戦後初めての全日本選手権は、同年十一月、第一回国体を兼ねて、瀬田川コースで行われたが、関東の覇者、東京帝大に惜敗し、全日本制覇を逸した。

明るる二十二年は、第二回関西スライディング選手権フォアに経車、琵琶湖レガッタに大学が各々優勝した。が終戦後の事とてかなり苦しい部活動であった。選手構成、クラブ維持に苦しみ、二十三年八月、同大、同艇専の端艇部の統一が行われた。合宿中、選手自

ら買出しに行くなどして練習を続けた。二十四年には、立教大と第一回の定期戦を戸田コースで行い、快勝、全日本選手権では、準決勝戦で慶応に敗退した。二十四年、二十五年の関西選手権は、同志社の不運続きであった。即ち、二十四年は、ボールアウト、二十五年は、接触レースとなった。しかしこの両年には琵琶湖レガッタに於いて宿敵京大を破り、二連勝。事実上、関西漕艇界にその覇を唱えた。飛んで二十七年には戦後初の新造艇「ワイルド・ローバー」を得、関西選手権に於て宿敵京大を二艇身で破り、関西の王座に君臨した。当時のクルーはC国富、S北尾、7松本、6三竹、5竹村、4久下、3湯川、2村井、B勝山であった。その後二十八年、二十九年、三十年、関西選手権での成績は、香ばしくなく、僅に、二十九年に來日した英国ケンブリッジ大学と関西選抜レガッタの準決勝に好戦、その他、対外レースは関西学生リーグ戦等のレースに優勝したに過ぎない。三十一年には、新艇「ポセイドン」でメルボルンオリンピック予選に出場したが、東経大に破れた。同年九月の関西選手権には、四年振りに、選手権を掌中に納めた。三十二年以後、関西選手権は、ナツクル・フオアのみで、朝日レガッタに於いても数度、優勝戦で破れ関西学生リーグ戦に優勝を三度握っているに過ぎない。又三十一年から始まった、対京大教養定期戦も、三十五年に、やっと一矢を報い、六年振りに、初勝利を飾ったのである。関西漕艇界の双壁京大とは、同志社最初のレガッタ(明治二十四年)以来、良きライバルであり、教養定期戦の勝利は、明日の同志社ボート部への明星でもあるのだ。

記録(同志社端艇略史)

- (明24) ボート、同志社に入る
 - ◇ 琵琶湖周航のバイオニア赤松樹六他数名
- (昭11) 対明大定期戦中止になる
 - ◇ 京都I・C高商優勝 大学二位
- (昭12) 関西選手権 エイト高商優勝 フォア大学優勝
 - ◇ 高商クルー、大学フォアクルー 全日本選手権大会に出漕
- (昭13) 関西選手権高商種目二連勝
- (昭14) 京都I・C高商優勝
- (昭15) 桜ノ宮レース優勝
 - ◇ 関西選手権優勝
- (昭16) 桜ノ宮レース二連勝
 - ◇ 戦争非常態勢になり他県への競技参加禁止さる
- (昭17) 関西選手権高商優勝
- (昭21) 第一回琵琶湖レガッタ兼全日本選手権関西予選高商優勝
- (昭22) 関西スライディング選手権同志社艇専優勝
- (昭22) 琵琶湖レガッタ大学クルー優勝
- (昭23) 同志社大学、同志社艇専合併
- (昭24) 対立教大学第一回定期戦
 - ◇ 関西選手権大会優勝を三高と分つ
- (昭25) 琵琶湖レガッタで宿敵京大を破り優勝
- (昭27) 戦後初の艇建造クワイルド・ローバー、関西選手権大会優勝
- (昭28) 関西選手権大会エイト・フォア準優勝
- (昭29) 八月ケンブリッジ大学招待レース兼関西選手権大会に出場
 - ◇ 権を得る
 - ◇ ケンブリッジ大学招待関西選抜レガッタでケ大学に少差で破れる。ケ大、本学に招待されアーモスト館にて旅情をなぐさむ

- (明28) 琵琶湖に於ける最初の競漕大会にて慶応と対戦
- (明31) 琵琶湖連合大競漕大会にて慶応を破る
 - ◇ 阿蘇、霧島、浅間の三艇、始めて建造
 - ◇ 大日本連合端艇大会にて大阪商業に勝つ
- (明32) 大日本連合端艇大会優勝、日本新記録を出す
- (明42) 新艇庫落成式兼饗頭レース
- (明43) 第二回琵琶湖一周
- (明45) 中学、大学個別クルー、新艇建造
- (大7) 沖の島附近ボート転覆事件
 - ◇ 淡路島周航の壮挙、大学部選手八名艇「桂」
- (大11) 固定艇式より滑席艇式に移る「天建風」「時津風」購入
 - ◇ 対慶応戦、初のシエルエイによる対抗戦
- (大13) 全日本レガッタ出場、フォア準優勝
- (大14) 大学部関西選手権、フォアクルー優勝
- (大15) スカール隊瀬戸内海縦断
 - ◇ 明治神宮競漕大会優勝
 - ◇ 第一回対明大定期戦
- (昭4) 菊水会(艇友会母体) 京都四条大橋菊水にて加藤小太郎氏他五名にて始まる
- (昭8) 瀬田川新艇庫完成 新艇エイト「クロガネ」建造
- (昭9) 桜ノ宮レース優勝
 - ◇ 三校エイトリーグ戦優勝
 - ◇ 新艇庫塞戸台風により崩れる
 - ◇ 高商フォア関西選手権を奪る
- (昭10) オリンピック予選関西代表として出場
- (昭11) 海軍記念日競漕(桜ノ宮レース)優勝

- (昭30) 関西学生リーグ戦全勝優勝
 - ◇ 第一回対京大シニエ定期戦
 - ◇ 関西学生リーグ決勝戦優勝
- (昭31) 新艇「ポセイドン」建造
 - ◇ 関西選手権大会エイト、スカール優勝 フォア準優勝
 - ◇ 関西学生リーグ戦全勝優勝
- (昭32) 朝日レガッタ ナツクル準優勝
 - ◇ 瀬田レガッタ教養クルー出漕 グットレース賞
 - ◇ 関西選手権大会ナツクルフォア、スカール優勝
 - ◇ エイト準優勝
 - ◇ 関西学生リーグ戦京滋地区優勝
- (昭33) 朝日レガッタ準優勝
- (昭34) オックスフォード大学招待

フエンシング部

昭和七年頃フランスでフェンシングを履修し帰国した若倉真清氏を中心に愛好者が集い、日本で始めてスポーツとしてのフェンシングが発足した。昭和九年四月、法政大、慶応大にクラブが出来、これに刺激されて各大学に次々と設立され、関西でも故郷堺氏を中心として発展した。

同志社では昭和十三年一月予科学生だった、喜多見彦之助、中谷武、西田修(16年卒)らが中心となって同志社「フェンシング・クラブ」を創立した。支那事変が始まって間もないため、一般の人からは「フェンシ

蹴球部部歌

- 一、さくら咲く日本の
世紀あけゆく時代ぞ
ふるき都に創てし
若きちからつといて
歴史の誇りながく
- 桃源の夢やぶれ
聖者の心もえて
みよ われらの同志社
うまれし蹴球部の
光は永久にきえず
- 二、あめつちの麗わしき
花ちり緑さへ
もゆる大地の上を
瞳になみだうかぶ
勝利を偲ぶときに
- こがね
黄金の春はくれて
腕にらしおたぎる
光栄かがやく球はとび
試練のなやみしげく
落日西に赤し
- 三、治北のあけほのに
十字の祈りさくぐ
待ちに待ちたる季節ぞ
慷慨の歌うたい
男のちほこる
- 仰き見る白き峰
青春の胸おとる
冬きたる 冬きたる
肉弾の血戦に
同志社大学蹴球部

陸上競技部独立記念歌

收 栄 一作詞作曲

- 一、紫雲霞登山被い
一千余年の平安城
玲を奏して長袖に
匪夢未ださめやらす
きながら眠る京洛に
生れ出でたる陸上部
- 二、前途洋々程遠く
果てしも知らぬ海岸に
千鱈万鱈何かある
怒濤澎湃將た何ぞ
彰栄館の鐘の音は
吾等に朝図を促せり
- 三、嗚呼おもむろに機熟し
大旗一度動く時
クロバの香蒸きよく
陸上部は今起ちぬ
威風凛々我が戦士
覇権を譲る事勿れ

端艇部部歌

①

端艇部作歌

- 一、騷奢の潮痕きとめて
祖国の為に剛健の
義憤に満ちし丈夫が
- 二、春残雪の夕まぐれ
秋銀霜の朝まだき
比叡山虹霓の
- 三、油浮ぶる夕べなき
うつす岸べあさ緑
錦も床し武夫の
- 四、聞けや勇まし湖こえて
古人を孝松の
歌には誰七馬に似て
- 五、怒りに狂る放万丈
乙姫舞うそ龍宮城
さわれ丈夫夫をのむ
- 六、颯爽なりし吾が選手
嵐をなし行く所
常勝の名のいや栄文
- 逸情の風を打ち破り
士風を茲に定めんと
血潮に凝かしボート団
オールの舞き雲をつき
琵琶の湖上に火を飛ばす
気を吐く勇原君見すや
真帆を片帆を絵にも似て
黄金なす花秋くれは
鏡の影ぞしのぶ哉
いななく駒に鞭うちし
嵐に霞む緑にて
残月還し茶の煙り
人をも舟も湖の庭
唐の都を見んとてか
囁く声に鉄の腕
一度漕げれば九万里
刃向ふ敵のあらはこそ
覇権はともに我にあり

端艇部部歌

②

- 一、恋をかこつか世を泣くか
終夜ら泣いて夢淡き
湖の乙女の憂きなやみ
嗚呼狂風よ起り立ち
藻屑と消えし真心を
赤き火をもて呼び返せ
- 二、来れ怒濤よ立ち返り
志す身のたをやめの
燃ゆる情の燈火に
ほたすにあらで雄々しくも
法の光にこがしたる
強き心をたふかし
- 三、なきぎつたいも此の夕べ
みつれば勇まし舟影
三つのクロバの旗高く
怒濤を蹴りて進み行く
目さすは足が燈火か
はるかに懸る天の河